

令和3年度 学校関係者評価報告書

東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和3年度自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

- (委員長) 村山 忠 元 公益社団法人 園芸文化協会 事務局
(委員) 草間 祐輔 元 住友化学園芸株式会社 普及部長
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
大久保茂徳 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会会員
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
桃木 好之 本校卒業生
株式会社花弘 制作デザイン マネージャー
高野真樹子 本校卒業生
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
(事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
水本寿美江 同 教務部長
小池 智子 同 教務副部長
永井 建 同 総務部長

2. 実施日時 令和4年3月7日(月) 15:30~17:30 於. 4階教室

3. 令和2年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

- ・学校の将来像を具体的にし、その実現に努めていくこと。
- ・学校の教育理念を学生に伝えて理解させること。入学時や1年次修了時に卒業までの理念・目標を理解させて学ばせること。教育理念に基づいて学んだ学生が、それを強みにして就職活動にも活かせるようにしていくこと。また、その理念を外部に広く積極的に発信し続けること。

2) 学校運営

- ・時代の流れにあわせて、学生への連絡はじめ活用可能なアプリケーションを導入していく。学生が授業内容の理解を深めるためにもアプリケーション活用を考慮していく。
- ・情報システム化については、外部でのシステム構築も考えていく。
- ・新型コロナウイルス感染対策も含め、積み上げてきたものを今後活かせるようにマニュアル化し学校運営に活かしていく。

3) 教育活動

- ・オンデマンド授業は、欠席した場合や学生の独学にも利用できる可能性があるもので、今後も利用できる形を検討し導入を考えていく。前回からの課題である授業評価の実施については、学生連絡に利用しているアプリケーションなどを利用して授業評価を開始することも考えていく。
- ・パソコン利用や SNS の活用など企業側が求めているものを、身につけられるようカリキュラムに反映していく。SNS など若い人の強みを伸ばしていくことも考慮していく。
- ・外部への特別講義などの実施も考慮していく。

4) 教育成果

入学する時点で、はっきりと目的意識を持った学生ばかりではないので、その学生に対して個別対応がさらに必要になってくる。退学する学生、または就職後にすぐに退職してしまう卒業生もいるため、入学前より入学希望者と対応していくことも考慮していく。

5) 学生支援

- ・前回に引き続き、発達障害がある学生や人間関係が上手くいかない学生のために、相談できるスクールカウンセラーを確保していきたい。
- ・開校 25 周年(令和 4 年度)に向けて同窓会開催を予定しているので、そのために卒業生の情報を集める必要がある。同窓会開催後に卒業生を主にした同窓会組織を構築していきたい。

6) 教育環境

経営上可能な範囲で整備を続けていくべきであろう。インターシップや国内研修旅行などは、まだまだ新型コロナウイルス感染状況で実施が難しい場合もある。

7) 学生の募集と受け入れ

高校生募集ばかりでなく、高校生以外のリカレント生の募集も改めて考えていく。学生を確保するために SNS 利用や個別対応など、引き続き学生募集活動に力を注いでいく。

8) 財務

募集定員が決まっている専門課程の募集ばかりでなく、附帯教育などの運営なども考慮していく。

9) 法令等の遵守

特に問題ないと思われるが、できる限り早期に自己点検・評価の改善点の実施につとめていく。

10) 社会貢献

新型コロナウイルス感染の状況で、各種イベントやボランティア活動ができなかったため、今後の状況で改善していく必要がある。

3. 総評

上記 10 項目について、東京テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、教育理念・目標や教育活動、学生支援など一部の項目については、さらなるレベルアップを図るための意見、提案が出されたことから、次年度以降一層の注力を望みます。

以上

東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和3年度 自己点検・自己評価報告書

—令和2年度分—

令和3年12月

学校法人 伊東学園
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校

学校法人 伊東学園 東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和2年度 自己点検・自己評価

平成19年に改正された学校教育法及び学校教育法施行規則により、専修学校・各種学校においては「自己評価の実施と評価結果の公表が義務化」され「学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化」された。これに伴い本学でも、より教育の質を高め、社会から信頼される学校を目指し、自己点検評価内容の公表を行うこととした。点検は、文部科学省のガイドラインを参考に10項目について行った。

学校法人 伊東学園 東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
自己点検・自己評価委員

委員長	理事長・校長 伊東 政信
委員	教務部長 水本 寿美江
	教務副部長 小池 智子
	総務部長 永井 建

1.学校の教育目標

教育目標(育て上げようとする人物像)

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることのできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・学生の夢や希望をかなえるために全力を尽くすこと
- ・多様化する社会に対応するためにより魅力的で、実戦的な教育内容とするべく、研究・研鑽を怠らないこと
- ・教職員、学生とも新型コロナウイルス感染防止に努め、学校を運営していくこと

<学生の学力などの低下がみられるため、充分に対処すること>

- ・コミュニケーション能力、基礎学力の向上を図ること
- ・卒業後の目標が不確かな学生に対しては、根気よく指導を続けること

<卒業後の進路の拡大を図ること>

- ・就職先をさらに提供するために、卒業生や既存の企業とのつながりを太くし、同時に新規企業を開拓すること

<授業内容の高度化を図ること>

- ・授業・実習に対する学生からの評価を生かして、授業内容の高度化と、授業に対する魅力を高めること

・分け隔てなく学生募集に協力すること

- ・同時に、募集対象者を留学生まで広げるなど、収入増の取り組みを行うこと
- ・施設・設備・什器等の管理や財務基盤についても関心を払うこと

評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	○				
2	学校の特色はなにか	○				
3	学校の将来構想を抱いているか		○			

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学校の理念・目的・育成人材像は定められており、学校の特色もパンフレットやホームページを通じて外部にも発信している。前回会議にもあったように実現につとめていく。

②今後の改善方策

3年、5年後の社会情勢を見据えた学校の在り方や教育内容の方策を引き続き改善していく必要がある。新カリキュラムの導入、さらに今後もマイナーチェンジをしながら教育内容を改善していく。

③特記事項

新型コロナウイルス感染状況により、本年度の授業開始を遅らせたり、対面授業だけでなく一部オンデマンド授業など試行錯誤しながら授業を実施した。今後も対応していく必要がある。

(2)学校運営

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	運営方針は定められているか			○		
2	事業計画は定められているか			○		
3	運営組織や意志決定機能は効率的なものになっているか			○		
4	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか		○			
5	意思決定システムは確立されているか		○			
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか				○	

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

運営方針や事業計画は定められているので、今後とも全教職員に浸透していきたい。

②今後の改善方策

学校運営に関する事項については全教職員で共有していく。以前より課題になっている情報システム化に関しては、今後を見据え効率的な仕組みを導入していく。
本年度は、連絡ツールとしてバンドアプリを導入し活用した。
またオンライン授業対応策としてWi-Fi設備を導入しようと思積を取ったが、費用が高額なため今回は導入を見送った。

③特記事項

(3)教育活動

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか		○			
2	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか		○			
3	カリキュラムは体系的に編成されているか		○			
4	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか		○			
5	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか		○			
6	授業評価の実施・評価体制はあるか				○	
7	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		○			
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	○				
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	○				
10	資格取得の指導体制はあるか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

前回から課題になっている授業評価の実施・評価については、まだまだ体制が整っていない状況(口頭での聞き取りによる情報収集は続けている)。外部からの職業教育への評価については、引き続き、教育課程編成委員会の開催によって継続実施していく。

②今後の改善方策

授業評価の実施・評価体制については定期的なアンケートの実施などを通じて整えていきたい。就職した際に求められるスキル、専門学校としての指導レベルを考慮しながら、今以上のカリキュラムの充実が必要である。教育課程編成委員会での外部からの評価はカリキュラム・授業内容の編成にあたり、引き続き取り入れていかなければならない。

③特記事項

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、非常事態宣言に伴い、年度行事、授業等の開始を5月末より開始した。また授業時間の短縮、一部の授業をオンデマンドで実施した。

(4)教育成果

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	○				
2	資格取得率の向上が図られているか	○				
3	退学率の低減が図られているか		○			
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

年度によって若干の変動はあるが、就職率、資格取得率については高水準を保っている。退学率は年間10%前後で推移しているが、令和2年度は78名在籍、1年生38名中7名退学、2年生40名退学者無、退学率10%を下まわったが、引き続き低減させるようにしたい。

②今後の改善方策

就職率、資格取得率は数字だけでなく、積極的な企業開拓や取得させる資格の取捨選択を行い、質の向上を図っていく必要がある。退学率については保護者とも連携し、一層の低減を図っていく。
また入学前より対応も検討していく必要があるので、今後入試制度の見直しも検討していきたい。

③特記事項

退学率については、新型コロナウイルスの影響はあった。例えば遠方から一人暮らしをしている学生などの通学意欲、学生生活など学生意識の低下に繋がったと推察する。

(5)学生支援

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	○				
2	学生相談に関する体制は整備されているか		○			
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		○			
4	学生の健康管理を担う組織体制があるか		○			
5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか		○			
6	学生の生活環境への支援は行われているか			○		
7	保護者と適切に連携しているか			○		
8	卒業生への支援体制はあるか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学生部という組織はないものの、担任、教員が普段から面談等を通じて各種の相談は受けている。保護者に対しては、行事や就職活動に関する情報を提供している他、就学状況に問題があった場合には個々に保護者と面談を行っている。

②今後の改善方策

これまでも課題にもあがっているが、スクールカウンセラーなどの導入を検討する必要がある。卒業生に対しての支援体制は学校側からの積極的な働きかけはあまりできていないため、同窓会組織を整備しながらしくみを作っていくようにしたい。
令和2年度から認定を受けている高等教育修学支援新制度の引き続き認定が受けられるように作業を進めていく。

③特記事項

新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてマスクの配布、検温や消毒、授業時間短縮等で実施に取り組んだ。

(6)教育環境

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか			○		
2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	○				
3	防災に対する体制は整備されているか		○			

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

施設・設備の若干の老朽化がみられる。教育活動や学生が求める環境に適応しなくなってきている。

②今後の改善方策

教育設備や快適な学生生活を送れる環境整備に少しずつ修理、営繕している。

③特記事項

新型コロナウイルス感染防止のため、検温、消毒の徹底に努めている。
そのために次亜塩素酸水作製器を導入し学内で消毒液の確保をし活用している。

(7)学生の募集と受け入れ

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学生募集活動は適正に行われているか	○				
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	○				
3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか	○				
4	学生納付金は妥当なものとなっているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学生募集については募集要項に基づき適正に行われている。

②今後の改善方策

学生募集に必要な教育成果について、カリキュラムや就職実績等、現状より魅力あるものを提供していく必要がある。

③特記事項

新型コロナウイルス感染拡大状況に対応し、動画、オンラインオープンキャンパスも提供した。

(8)財務

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか			○		
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか			○		
3	財務について会計監査が適正に行われているか	○				
4	財務情報公開の体制整備はできているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

近年は学生数は増加しているが、財務基盤の中長期的な安定にはいたっていない。

②今後の改善方策

財務基盤の主となるのは学生数であり、学生数を増やすための魅力あるカリキュラムの作成、充実した就職実績を上げることに注力しなければならない。

③特記事項

(9)法令等の遵守

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	○				
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		○			
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか			○		
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

令和元年度分の自己点検・自己評価をサイトで公開をした。問題点については引き続き改善をしていく。

②今後の改善方策

自己点検・自己評価の結果を継続公開するにあたり、引き続き、委員会の整備、また、委員会委員以外の教職員にも結果とその問題点について共有し、学校全体となって改善を続けていくことが必要である。本年度はコロナウイルス対応を優先にしたため、改善がすすんでいない。

③特記事項

(10)社会貢献

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか			○		
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか			○		
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学生のボランティア活動について、学校側から紹介することはないが、学生からの活動の希望があれば支援していく。

②今後の改善方策

コロナウイルスの影響でイベントの中止などもあり改善できていないため、感染状況が落ち着いたら地域のイベント参加など社会貢献への取り組みを模索していく必要がある。学生のボランティアについては学校からの情報提供を増やせるようにしたい。

③特記事項